

## 小5国私立中学受験クラス(算数) 学習のすすめかた

### 【授業前の準備】

- ・宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておいてください。
- ・筆記用具など忘れ物がないかを確認し、忘れ物があるときは受付へ相談しに行きましょう。
- ・スマートフォンなど音が出る機器はサイレント(無音)モードにするか、電源をオフにしましょう。

### 【授業の受けかた】

- ・飲み物は飲みたいタイミングで飲んでかまいません。食べ物はアメやガムをふくめ禁止です。
- ・お手洗いに行きたくなったときや体調が悪いときは、遠慮せず手をあげて申告してください。
- ・授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。  
(私語、不規則発言、机えのつぶし、居眠り、イスあそび、テキスト立て、ペン遊び など)
- ・途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。  
(問題文への線引きや図形問題の条件等は書きこんでかまいません)
- ・とくに指示がある場合をのぞき、板書の内容はすべてノートにとるようにしましょう。

【授業内容】 ※ 授業では、A授業・B授業いずれも「中学受験新演習」を使用します。

(前半) 復習授業 : 前回の「練習問題」から、ピックアップ演習 & 解説を実施します。

(後半) 導入授業 : 新出単元の導入・演習を、「例題」「基本問題」で実施します。

【クラス共通の宿題】 ※ なるべく(1)から順番に実施してください。

(1) (復習授業回) 「練習問題」 × 問再実施 ※ 第2回授業以降

(2) (導入授業回) 「例題」 全問実施 → 「類題演習」 全問実施

- ・例題は解説をかくして実施し、自力で解けない問題は授業ノートの解説を確認しましょう。
- ・例題を自力で解けるようになってから、類題演習を実施してください。

(3) (導入授業回) 「計算日記」 1日1ページ×6日ぶんの実施 + 週ごとの×問の総復習

- ・1ページあたり10分～15分の制限時間を設定して実施しましょう。(時間は目安です)
- ・(2)をなるべく授業翌日までに実施し、(2)の実施が終わってから開始してください。

(4) (導入授業回) 「基本問題」 授業で実施した問題の×問再実施+残りすべて

- ・わからない問題は、授業ノートで対応する問題や例題の解説を確認してください。
- ・×問は解説を見て理解した内容をふまえ、「自力で解ける状態をつくる」解きなおしをしましょう。

(5) (導入授業回) 「確認テスト」 全問実施

- ・うら面の【確認テスト実施の流れ】をよく読み、きまりを守って実施しましょう。

(アタックテスト偏差値55以上が目標の場合) ※ やれる人のみ実施 (クラス共通の宿題ではありません)

(6) (復習授業回) 実力アップ問題集 a)またはb)を実施

- a) アタックテスト偏差値55以上が目標 → 「ポイントチェック」「基礎演習」の実施
- b) アタックテスト偏差値60以上が目標 → 「基礎演習」「標準演習」の実施

※ 「標準演習」は復習授業受講後に実施してください。(それ以外は導入授業受講後に実施してもかまいません)

※ さらに上を目指す場合は、中学受験新演習「練習問題」の残りにも取り組んでみましょう。

### 【家庭学習を実施するうえでの注意点】

・ (1)(2)(4)(6)は宿題提出用ノート、(3)は計算日記用ノート、(5)は添削用紙に実施・提出しましょう。

※ ノートは「授業用ノート」「宿題提出用ノート」「計算日記用ノート」の3冊を準備してください。

・ すべての宿題について、「自力で解く」→「〇つけをする」→「×問は解説を確認して、ミスの直しをする」→「×問を自力で解けるまでもう一度解きなおす」の流れで実施してください。

※ ミスの直しをするときは、「ミスの部分の修正」「解説を見て理解したことのメモ」を入れながら、答えまで到達するための自分なりの途中式も書きましょう。(解説の丸写しは不要です)

※ 算数に限らずすべての科目でいえることですが、最も力がつくタイミングは「できなかったこと」が「できるようになった」ときです。  
学習の効果を最大化するためにも、×問は解きなおしまで実施することを徹底しましょう。

・ どうしても宿題をやりきれない場合は状況に応じ課題量を調整しますので、必ず相談してください。

【確認テスト実施の流れ】

- ① 配布された添削用紙をたてに半分で折り、実施日・名前を書く。
  - ② タイマーをセットし、途中式や筆算をできる限り残しながら全問を実施する。
  - ③ 実施にかかった時間を添削用紙の左上へメモし、解答を確認して○つけをする。
  - ④ ×間は解説や授業用ノートを確認して、ミスの修正(なおし)やメモをする。
  - ⑤ ④で理解した内容をふまえ、×間を自力で余白へもう一度解きなおす。
- ※ 見る人へ伝わる途中式・字を書くことを意識してください。
- ※ スペースが足りない場合は、うら面をつかってもかまいません。
- ※ ×間で解説やノートを確認してもわからない問題は、「何がわからないか」をなるべくくわしく書き残したうえで、解きなおしはとばしてもかまいません。（解説の丸写しは不要です）
- ※ 添削用紙のみ提出してください。（問題用紙の提出は不要です）

【確認テストのねらいについて】

- 1) 途中式を求められる学校へ向けて、答案作成の練習も兼ねています。
- 2) その週の宿題の定着度をチェックする位置づけで課題としています。  
  
確認テストで点数が取れない場合、宿題の進めかたに何らかの問題が発生しています。その週の学習をふり返り、1週1週改善すべきところは改善を目指してください。
- 3) 時間をはかりながらテスト形式で実施することで、時間を意識する必要がある模試・過去問への対策も兼ねています。
  - ・ 確認テストで100点を取ることを目標にその週の宿題を進めましょう。
  - ・ 開始する前に自分で目標時間を設定し、その時間内に解ききることを目指してください。
  - ・ 見直しの時間も目標時間に組みこみ、ケアレスミスが減らす意識を持つようにしましょう。

【確認テストの実施例】 ※ 添削用紙を受け取っていない場合、別紙へ同様の形式で実施・提出してください。

添削問題解答用紙 「確認テスト」 第 回

(口分口秒)

①)  $24 \div 3 = 8$   
 $8 \times 2 = 16$       答え 16

②)

③)

④)

⑤)

⑥)

⑦)

⑧)

⑨)

⑩)

⑪)

⑫)

⑬)

⑭)

⑮)

⑯)

⑰)

⑱)

⑲)

⑳)

㉑)

㉒)

㉓)

㉔)

㉕)

㉖)

㉗)

㉘)

㉙)

㉚)

㉛)

㉜)

㉝)

㉞)

㉟)

㊱)

㊲)

㊳)

㊴)

㊵)

㊶)

㊷)

㊸)

㊹)

㊺)

㊻)

㊼)

㊽)

㊾)

㊿)

※ ×間は自分の途中式を見て、「どこが違っていたか」の直しを実施しましょう。

(日付)

(氏名)

①)

②)

③)

④)

⑤)

⑥)

⑦)

⑧)

⑨)

⑩)

⑪)

⑫)

⑬)

⑭)

⑮)

⑯)

⑰)

⑱)

⑲)

⑳)

㉑)

㉒)

㉓)

㉔)

㉕)

㉖)

㉗)

㉘)

㉙)

㉚)

㉛)

㉜)

㉝)

㉞)

㉟)

㊱)

㊲)

㊳)

㊴)

㊵)

㊶)

㊷)

㊸)

㊹)

㊺)

㊻)

㊼)

㊽)

㊾)

㊿)

○つけをしたあと、×間は解説を確認したうえで余白へもう一度解き直しをしてください。

真ん中で折り、たてに2分割してください。

時間をはかって実施し、かかった時間を左上あたりに記入してください。

途中式が発生する問題は、途中式を残しましょう。また、どれが答えが明確にわかるように示してください。

添削用紙を左右に分け、たてに解き進めるようにしてください。

上らんの記入は氏名・日付のみでかまいません。